

お練りに稚児90人 伊那組光明寺



宗祖750回大遠忌法要営む

「開基500年」も併修

和歌山教区内では今年初となる親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が、去る三月二十五日、紀の川市名手市場の光明寺（宇多光誠住職）で営まれ、同寺門信徒らは一足早い法要に参拝し、喜びに包まれていた。

同寺が今年で開基五百年に当たることから、慶讃法要も併せて営まれた。

この日は朝から雨、午前九時、写真上へ厳かな行道が行われる中、正信偈がつとめられた写真下へおねりの途中に、庭儀宿でのおつとめ

発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
 編集 教区報編集委員会
 和歌山市鷺森1番地
 鷺森別院内
 電話 和歌山(073)422-4677
 FAX 和歌山(073)428-2450
 発行人 水上義乗

法要開始の梵鐘が鳴り響く中、ぞくぞくと参拝者が詰めかけた。時折、激しい雨の中、同寺近くの総合センターから本堂までお練りが行われ、稚児九十人、組内の住職・僧侶らが奏楽員の雅楽が鳴り響く中、にぎにぎしく練り歩いた。

午前十一時半から法要が始まり、まず、伊那組組長（藤範順誠）大光寺住職）が本願寺からの祝詞を読みあげ、同寺宇多住職に伝達した。法要は正信念仏偈作法で、法要中は厳かな行道が行われ、満堂の参拝者全員で正信偈をつとめた。

開基五百年という節目の年だけに、希有の勝縁に参拝者らは二重の喜びに包まれていた。

今回の実行委員長の榎本文博さんは「開基五百年を縁として親鸞聖人のお心をあらためて味わわせていただきました。これからますますお念仏の花が咲くように努力したい。ご本山での法要には必ずお参りさせていただきたい」と喜びを話していた。

今後、同寺をはじめ、教区内各寺院でも大遠忌法要が勤められることになる。

鷺森テレホン

紙上法話

島 和 夫

(和歌山教区 本願寺派布教使)

三年程前に歌手の「さだまさし」さんのコンサートが田辺市であり夫婦で出かけました。

「さだまさし」といえば「精霊流し」「無縁坂」などのヒット曲で、みなさんもよくご存じかと思えます。

この方のコンサートは、歌ばかりではなく、曲と曲との合間には必ず長いお話があるんです。

ある時は笑い話、ある時は心に訴えかける話、また、政治の話などいろいろ聞かせてくださいます。この日、歌の合間にこんな話をしてくださいました。

「皆さんは生まれてきたと

き、手を握りしめて生まれてきましたよね。何を握りしめて生まれてきたんでしょうね。ぼくはこう思うんです。右手には勇氣、左手には元氣を握りしめて生まれてきたんだ。ところがこの右手の勇氣は使えば使うほど、どんどん、どんどん増えてくるんです。でもこの勇氣を使わなければ使わないほど、どんどん、どんどん減ってゆくんです。左手に元氣。この元氣も使えば使うほど、どんどん、どんどん増えてゆくんです。ところが

「お慈悲につつまれて」

使わなければ使わないほど、どんどん、どんどん減ってゆくんです。みんな、この勇氣と元氣はどんどん使って増やしているこうね」と話してくださいました。

その話を聞きながら、生まれてきた時しっかりと握っているこの手を開かせてくれたのは、いったい誰なんだろうと思いました。一人で生きてきた、人生を送ってきたと思っていたけれど、

ど、考えてみると、この元氣もこの勇氣も、自分でおこしたものでなくて、父さんや母さん、じいちゃんやばあちゃん、いろんな人によって育てられ、そして、やがてこの手を開かされたんだなあーと考えさせられました。

あなたもまた、今テレホン法話に電話したり、手をあわせ、お念仏を称えていることも、仏法に出会ういろんなご縁があったからだと思います。

父や母、祖父や祖母の導き、時には愛しい人、親しい人との別れの中で、仏法にあうご縁を頂き、そのご縁の中で、阿彌陀様のことが、障り無く

救う」というご本願のみ心にお育てをたまわり、手をあわずにはおれない、念仏もうせずにはおれない私に仕あげてくださったのだと気づかされると思います。

人生を送る中で、大きな喜びにであうときや、どん底といえるときもあるでしょう。そんなときにこそ、わたし一人の命ではなかつた。わたしを立派に育て導き、ご縁をくださった方々の願いと、阿彌陀様にお慈悲につつまれた命であったと喜びと悲しみを縁として深く味わってみてはいかがでしょうか。

頭が下がりますね、有難いことです。

南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏

鷺森テレホン 法話

24時間いつでもどこからでも3分間法話が聞けます。

(法話は毎月一日・十五日に変わります)

073-422-0243

おにしさん

基幹運動のページ

近畿同朋運動推進協議会会員研修会

近畿同朋運動推進協議会では、去る二月五日、和歌山教区が会場担当のもと鷺森別院で、同和教育振興会常務理事の岩本孝樹さんを講師に「今日の部落問題と同朋運動―その動向と課題―」と題して会員研修会を開催した。

講師は、今日の同朋運動を取りまく情勢について、まず、現在の格差社会の問題にふれ、「ある一定の階層を作り出している点は、過去の身分階級と同じで、差別の構造そのものである」と指摘。

次に、最近の部落問題は、原因を穢れ意識に委ねる傾向がある点をあげ「葬式の清め塩の廃止のように、穢れを取り除くことが、差別撤廃の行為のように思われがちだが、それは差別の本質を見えにくくしてしまっている」と言及。

一方、これまでの教団の取り組みをふりかえると、差別法名過去帳調査によって法名の本来化という課題が生まれることになった。一つに過去帳の扱いを門徒支配に利用してきた歴史に対して、僧侶の体質を問うことになった。二つに法名や院号の是々非々を論議していくという契機をつくった。三つには、宗祖が非僧非俗の名告

りとして法名を捉えている点を確認したことであった。この三つの課題を改めて再認識する必要がある。そして、教団の差別をしてきた歴史と、差別を克服してきた歴史、二つの私たちが背負わなければならぬ教団の歴史を真摯に学んでいくことが大切になってきている。私たちの先人には、差別を打ち破って、親鸞聖人のみ教えに少しでも近づこうとした気合いに満ちた念仏者・お同行の姿があったことを忘れてはならない。

現在の格差社会と矮小化された部落問題に対して私たちは、今こそ先人の思いを深く受け止め、同朋運動を推し進めなければならぬと語られた。



現地研修会

教区基幹運動推進委員会同朋部会では、和歌山県下の差別解放運動の事例を研究する一環として、現地に向き今後の同朋運動のあり方を見直すため、三月十二・十三日の二日間、田辺市本宮町を主会場に現地研修会を実施した。



一日目は、まず本宮行政局を訪問し、横井隆久住民生活課長より、熊野川に面した和歌山県下でも有数の地滑り危険地域であるとされた苔部落が、熊野本宮大社の裏山にあたる祓所へ、昭和五十九年九月に全戸移転を完了するまでの経過についての話を伺った。

「本宮町は古くから差別解放運動に取り組んでおり、この事業を完遂するまで、全町民的に人権啓

発の学習会を繰り返す、さらに町づくりの一環として取り組んできたことが混乱もなく事業を完遂できた要因となった。」と説明。その後、移転先の祓所団地と元の苔部落跡へ移動、現地視察を行った。二日目は、大逆事件で知られる高木顕明師が元任職の新宮市の浄泉寺(大谷派)を参拝した。



*****教区だより*****

1月

- 9日 教務所事務開始
- 17日 基推委企画常任委員会
- 18日 基推委第2専門部会
- 23日 かりょうびんが15周年記念大会
- 23日 近畿保育連盟評議員会(兵庫)
- 24日 近畿議長・組長・教務所長会議(滋賀/25日まで)
- 26日 基推委第3専門部会
- 27日 第3連区門推協研修協議会(兵庫/28日まで)
- 31日 ビハーラ講座①

- 10日 近畿ブロック仏壮研修会(大阪/11日まで)
- 12日 同朋運動推進現地研修(本宮/13日まで)
- 14日 少年連盟委員会
- 14日 少年指導者研修会
- 16日 教区報編集委員会
- 16日 対応委員会
- 16日 寺青連盟例会
- 17日 勤式講習会(日高別院)
- 23日 門徒総代会研修旅行(京都)
- 27日 定期教区会
- 29日 布教団研修会
- 30日 第3連区ビハーラ研修会(大阪)

2月

- 3日 社推協・ビハーラ合同公開講座
- 3日 勤式講習会(鷺森別院)
- 5日 近同推会員研修会(和歌山)
- 7日 如月忌(本山)
- 8日 大阪矯正教化連盟大阪管区支部研修会(兵庫)
- 8日 人権啓発研究集会(白浜/9日まで)
- 13日 教区報編集委員会
- 14日 門徒総代会委員会
- 14日 葬儀冊子委員会
- 14日 近畿ブロック青年布教使研修会(京都/15日まで)
- 17日 勤式講習会(日高別院)
- 21日 近畿ブロック仏青研修会(白浜)
- 23日 寺婦連盟役員会
- 26日 ビハーラ講座②
- 26日 僧侶・寺族・推進委員研修会
- 28日 葬儀冊子委員

4月

- 5日 スカウト仏教章取得一泊研修会(鷺森/6日まで)
- 6日 仏婦委員会
- 9日 布教団役員会・総会
- 9日 布教団連続法座
- 19日 寺婦役員会
- 20日 門徒総代会・委員会
- 23日 組長会
- 25日 恵信尼さま顕彰平和の日の集い(京都)
- 26日 臨時教区会

5月

- 7日 相談員研修会(本山/8日まで)
- 12日 保育連盟新任補任式・大学講座(京都/13日まで)
- 13日 仏壮連盟・研修会
- 14日 寺婦連盟・研修会
- 15日 門徒総代会総会・研修会
- 16日 仏婦連盟総会・研修会
- 23日 基幹運動推進専従員研修会(本山/25日まで)

3月

- 2日 連研のための研究会
- 3日 勤式講習会(鷺森別院)
- 5日 基推委企画常任委員会
- 5日 中央相談員教区巡回
- 6日 常備会
- 7日 仏壮幹部研修会
- 8日 第3連区ビハーラ実行委員会(大阪)
- 8日 教区会議員・組長・基推委員本山参拝(京都/9日まで)
- 8日 門徒総代会・仏婦念仏奉仕団(本山/9日まで)

6月

- 4日 近同推総会(本山)
- 11日 近畿ブロック少年連盟指導者研修会(京都/12日まで)
- 12日 中央基推委(本山/13日まで)
- 13日 布教団連続法座
- 16日 責任役員・門徒総代辞令伝達式
- 20日 全国組長研修会(本山/21日まで)

別院だより

鷺森別院

【常例法座】毎月十五・十六日

午後一時半より

四月 幡多哲也師(兵庫教区)

六月 佐々木法雨師(北海道教区)

七月 松本 設師(大阪教区)

【二尊会】

五月十三日～十六日

午後一時半より

板倉耕整師(東海教区)

【降誕会】

五月十七日 午前十時より

水上義乗師(鷺森別院輪番)

【永代経法要】

六月十七日 午後一時半より

宏林晃信師(兵庫教区)

日高別院

【常例法座】

四月二十日 午後一時半より

幡多哲也師(兵庫教区)

【降誕会・花まつり】

湯川忌法要

五月十三日 午後一時半より

【永代経法要】

六月二十日 午後一時半より

宏林晃信師(兵庫教区)



教化団体のページ



第5回 門徒推進員連絡協議会紹介

【門徒推進員とは】

親鸞聖人のみ教えに信順し、如来の本願を大地とし、その教法に生きるものの、誇りと喜びの名のりが門徒であります。それを継承する一人として、教団の運動に積極的に参加する人を門徒推進員といいます。浄土真宗本願寺派の基幹運動は、阿弥陀如来の本願を究極の拠りどころとして生きられた親鸞聖人に学び、つねに全員が聞法し全員が伝道して、私と教団の体質を改め、差別をはじめとする社会の問題に積極的に取り組み、御同朋の社会の実現をめざす運動であり、僧侶・門徒のたゆみない本来化への営みであります。門徒推進員は、教団の基幹運動を僧侶とともに実践する門徒で、所定の研修(連研並びに中央教修)を経て、当該教区教務所長より委嘱され、当該教区教務所並びに伝道社会部備え付けの門徒推進員名簿に登録された人を行います。(門徒推進員要綱より)

当連絡協議会では、この門徒推進員要綱を基に御同朋の社会をめざし、門徒推進員として自覚をもち、率先して聞法にいそしみ、寺院、家庭、

職場、及び地域など、日常の生活に根ざした基幹運動の充実と共に歩む人材の育成をはかることを目的とし活動しています。また、会員相互の交流と各活動実践の悩みや問題点などを話し合い、より一層の運動推進に向け努めています。

現在の教区門徒推進員は三十五人でこの数字は全国的に比べても非常に少なく、教区内では連研から中央教修受講という一連の流れが整備されておらず、門徒推進員の認識度も低く、活動の場が制限されているのが現状であります。

そういった状況を受け、現在教区内連研修了者名簿を整理しており、この名簿を元に直接・間接的に中央教修受講可能な六十五歳以下の修了者への呼びかけえを行うことや、組連研修了後の学びの場として、全ての修了者を対象とした「連研修了者の集い(仮称)」の開催などを提案し、教区基推委や関係部署の方々と協議を重ね、門徒推進員の増員に向け取り組みを進めております。

今後とも門徒推進員の活動へのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

会長に聞く



和歌山教区和歌山組本弘寺
門徒総代
内田 孝さん

連研を経て中央教修に参加し、門徒推進員になり会長に任命された。定年退職が近づくにあたり連研への参加を頼まれた。最初は気が進まなかったが、今では参加して良かったと思うと語る。推進員は勉強のため自ら志望した。

推進員の活動として、年一回の第三連区(近畿)協議会への参加、連研修了者へのフォロー、推進員の勧誘、寺院活性の意見交換ほか、教化団体の支援など基幹運動への参加があげられる。

これらの活動の中で、「法座後にゲーム等をする事により参拝者が増えた。」「掲示伝道で人に呼びかけをしてみてはどうか。」「意見を集めガイドブックの様な物を作ってみては。」等、寺院活性のアイデアが出ているようだ。

推進員になって良かった点を聞くと「志が高く、自覚をもって積

極的に様々な活動に関わる事が出来る。又、枠組みが無いため参加出来る活動範囲が広い。」反面、問題点もあるという。「推進員は立場が不明確で位置づけが難しく、自分たちから新たな試みを持ちかけにくい。また人数が少ない。年齢制限のため該当者に限りがある。」とのこと。

内田さんの思いを尋ねると「推進員のための研修会があれば良いのではないか。」「門徒総代をするような人は連研に参加すれば。最初は嫌でも、考え方も変わるし、その人のためになるから多少無理してでも来てもらうべき。自分がそうであったように。そして、連研修了者は推進員になってもらいたい。声をかける時、お寺の力は大きい。」さらに「寺は死んだ時のもの」という風潮を変えたい。悲しい事だけでなく、嬉しい事(結婚式・初参式等)もお寺で。今までお寺に縁が無かった人、若い人が多く関わって欲しい。宗派や門徒などの枠を越え参加・交流出来れば。」「本山・寺院の発展のため、心の拠り所を求めている人のためにも布教を手伝っていききたい。」と熱意溢れる答えが返ってきた。

お寺の雑学

君の名は

歴代住職の何番目になるかと言う時、何代と何世のどちらを使うか、悩んだことがあります。血脈が続いているとかいないとかで区別されるというような話もあるようです。

三代將軍とルイ十三世、どちらも君主・名人などの順番を表現し

ています。意味の違いをとらえることはできません。

どうして二種類の表現ができてしまったのか、これは皇帝の権威に関わっているようです。

唐をうち立てた高祖に続く皇帝が太宗。彼の名は李世民といいますが、即位すると皇帝の名である「世」を使うのはケシカランというので、仏典と道教の典籍以外では使えなくなりました。したがって、現世・世間・世界などは使えるものの、○世は○代と変えざるを得なかったという事情があります。

した。今もこのなごりがあります。

次に皇帝となった高宗の名は李治。病気をなやすという意味の治病は療病という言葉になりました。

高宗の皇后だった則天武后においては、「罔」「嬰」といった新しい文字まで作られました。則天文字と呼ばれています。

『阿弥陀経』の「而雨曼荼羅華」は則天文字の「天」が「而」に似ていたのが間違つて流布したという説もあるのです。げに権力とは恐ろしいものでもありますね。

気になる一冊

スピリチュアルにハマる人、ハマらない人
香山リカ 幻冬舎新書 720円



オーム真理教による地下鉄サリン事件以来、すっかり陰をひそめていた超常現象や心霊現象を取りあげるテレビ番組。いつの間にか息を吹き返し、細木数子さんや江原啓之さんなどが出演する番組は、いずれも高い視聴率を稼ぎ出しているそうです。テレビ番組だけではなく、出版業界においても今、「霊」「オーラ」

などスピリチュアルが大ブーム。かつてはおどろおどろしいイメージのあった「守護霊」「前世」などの話も装いを変え、明るくオシャレになって多くの人々に受け入れられています。

本書の著者は、スピリチュアルにハマらない人と自称する精神科医の香山リカさん。理性否定の方向に走りがちなのブームに危惧を抱き、本書を執筆したそうです。

一昔前のオカルト番組といえ、心霊写真や怪奇現象などをとりあげ、見る人の恐怖心を煽るような内容でした。ところが、近年の江原さんに代表されるスピリチュアリストたちの言動はそれとは

まったく対極的。洗練されオシャレな彼らは、人間の自己本位の感情や身勝手な欲望の充足を優しく肯定し、受け手に心地よく自分たちのメッセージを伝えると、著者は指摘します。

つまり、難しいことは言わないでとりあえずこの「私」を癒して欲しいという現代人の自己本位なニーズに「霊」「オーラ」「前世」などをキーワードに応えているのが現代日本のスピリチュアリストたちであると結論づけられます。

混迷の度合いを深める現代社会を象徴するかなようなスピリチュアルブームについて考えを新たにさせられる一冊でした。

かりようびんが
結成十五周年 記念コンサート
本堂いっぱい清らかな
歌声が響き渡った

去る一月二十三日午後一時より鷺森別院本堂で、教区寺族婦人合唱団「迦陵頻伽さぎのもり」の結成十五周年記念コンサートが開催された。

式典では音楽礼拝(重誓偈)の後、水上義乗教務所長をはじめ各方面の関係者が祝辞を述べた。記念コンサートでは、地元和歌山のリンデンバーム浄應寺、エコーさぎのもりをはじめ、萌木の響き(東海教区)、コール・デ・ナーモ(岐阜教区)、いこま美妙音(奈良教区)など活動を通し交流を深めた県内外の合唱団が駆けつけ、友情出演を行った。クライマックスでは参加した合唱団全員で合奏を行い、本堂いっぱい清らかな歌声が響き渡り、盛況の内に終了した。



僧侶研修会開催される

教区基幹運動推進委員会は、去る二月二十六日、僧侶・寺院・基推委員長研修を鷺森別院本堂で行った。

午前十時半からの開会式に続き、勤式研修会として、本願寺式務部会役者の桃園裕成師を講師に、先ごろ制定された椅子席規範について講義。講義では龍谷会での報恩講作法に基づいた椅子作法が実演された。

この作法の問題点として、姿勢を保つのはつらい・声が出し



づらい・軽い椅子は動いてしまふ・机上に物を置く危険性などが挙げられた。
質疑応答では、葬儀での曲象などの椅子を使用したときの作法に質問が集中した。また、法式に関する点全般に及んだ質問もあり、参加者の関心の高さを示したものであった。

昼食をはさんで午後からは、基幹運動推進研修会として、元中央相談員・新潟教区元上組極楽寺住職の麻田秀潤師を講師に、「私たちの課題―基幹運動推進僧侶研修会からの学び―」と題した講義をいただいた。

講義はこれまでの基幹運動、特に同朋運動の取り組みを改めて整理し、今後の展開へと繋ぐよう学びを深めていくものになった。

参加者人数は午前は五十五人、午後は五十三人。

少年教化活動のための研修会「子どもの集い」開催に 向けて研修会開催

去る三月十四日、「子どもの集い」開催に向けての研修会が鷺森別院会議室で十五名参加のものと開催された。

第一部では稲垣貴史教区少年連盟委員長が「子どもの集い(キッズサンガ)」を各組・各寺院において開催する上で、どんな準備・プログラムを計画すればいいのか具体的に海草組の例を交えて講義していただいた。

第二部では少年教化アドバイザーの佐々木祐行さん(和歌山組専養寺)にレクリエーション(ゲーム等)の実演を交えながら、子ども達と向き合う上での注意点などを講義していただいた。

近畿ブロック仏教青年連盟 研修会開かれる



去る二月十七日・十八日の二日間にわたり、白浜で近畿ブロック仏教青年連盟研修会が二十一人の参加のもと開催された。一日目は、講師に藤俊乗師(紀南組善福寺)を招き「そうですか、そうですね、そうでしたか」と題し、講義が行われた。その後、レクリエーションや話し合いの場がもうけられ、交流と研鑽を深めた。二日目は、ほんまもん体験として紀州備長炭の風鈴作りをした。

第五十一回 全国児童生徒作品展

毎年、本山にて開催される「全国児童生徒作品展」に、白子智恵さん(有田南組善照寺)が絵画の部で本願寺賞に入選されました。おめでとうございます。

組長・教区会議員・基推委員長 任期満了に伴う合同本山参拝

三月三十一日に任期満了を迎えた組長・教区会議員・基推委員長が、任期満了の報告を兼ねて三月八日に本山参拝を行った。

まず、不二川公勝総長との面談、引き続き素屋根が撤去された御影堂内部の修復現場を見学し、本山部長より現在進められている法要計画や宗門長期計画の進行状況の説明を受けた。

また、各寺院や組、直属寺院での大遠忌法要勤修に向けての協力を依頼された。

連研のための研究会 活発な話し合い教区内 連研の問題点が浮き彫りに

去る三月二日に鷺森別院で連研のための研究会が開催された。

現在、教区では連研修了者が、約二千人に上るが門徒推進員が三十五人と全国的に比べてもかなり少なく、今回はこのような現状を受け、「連研の現状と問題点」と題し、講師に井上慶真師(連研中央講師)を迎え、僧侶・寺院・門徒推進員の計三十一人が参加し、活発な話し合いが行われ、連研の問題点が浮き彫りとなった。

門徒総代 親鸞聖人のご旧跡を訪れ 聖人のご遺徳を偲んだ

去る三月二十三日に教区門徒総代会が親鸞聖人のご旧跡を訪ねる第一回研修旅行を実施。四十一人が参加し、聖人のご遺徳を偲んだ。

この研修旅行は、大遠忌法要に向け門徒総代として今一度、聖人のご遺徳を研鑽しようと発案され、普段はなかなか参拝する機会がない聖人ご旧跡を五年後の法要までに訪ねる予定である。

今回は日帰りの日程で開催され、まずは聖人誕生の地である日野誕生院を訪れ、沿革と幼少の聖人のエピソード話を聴聞した。その後得度の地、青蓮院、

法然上人の吉水の草庵や元大谷があったとされる知恩院山内の各所、修行の地である比叡山延暦寺などを訪れた。



親鸞聖人伝絵 絵解き法座受講者募集

今年度より教区布教団主催で二年で十二回(年六回)の連続法座を開講しています。

内容は親鸞聖人のご生涯九十年を偲び、御絵伝を通し、説教風に聖人のエピソードを交え、お示しくくださった本願他力のおこころを味わいます。

開講日程等詳細は左記の通りです。



講師 若林真人師
(本願寺派布教使・輔教)

開講日

二〇〇七年

① 四月九日(月)

② 六月 十三日(水)

③ 八月二十七日(月)

④ 十月 十日(月)

⑤ 十二月 八日(土)

二〇〇八年

⑥ 二月 十三日(水)

いづれも午後七時から九時まで
会場 鷺森別院書院

参加費 年間(年六回分)

一、〇〇〇円

各回(一回分)

三、〇〇〇円

※ごなたでも参加出来ますので、教務所(花田)までお申込ください。

TEL(073) 422-4677

各教化団体二尊会総会 研修会のご案内

毎年鷺森別院の二尊会期間中(五月十三日～十六日)に各教化団体の総会並びに研修会が開催されます。

五月十三日(日) 仏壯連盟

十四日(月) 寺婦連盟

十五日(火) 門徒総代会

十六日(水) 仏婦連盟

各日程は午前に総会・研修会、午後二尊会参拝の予定となっております。詳細につきましては、後日各教化団体からの案内状にてご確認ください。

なお、仏壯連盟・寺婦連盟は委員改選のため、総会は後日開催いたします。

責任役員・門徒総代 辞令伝達式

六月十六日(土) 午前十時から、鷺森別院本堂にて、「責任役員・門徒総代辞令伝達式」を開催

催します。

各寺院において、新たに責任役員・門徒総代に就任された方に、本山からの辞令を教務所長より伝達させていただきます。

詳しくは、約一ヶ月前に該当寺院へご案内いたします。

なお、今年度より年二回開催。次回は十二月開催予定。

得度

荻野 龍裕 海南組 浄国寺
荻野 千夏 海南組 浄国寺
岩橋 真隆 紀南組 金徳寺
杉山 映里香 和歌山北組 永正寺
藤本 唯瑛 伊那組 極楽寺

教師

伊藤 智教 和歌山西組 西教寺
伊藤 恭孝 有田北組 教念寺
辻本 一仁 海南組 大専寺

逝去

岩井トミエ 伊那組 教善寺
前任職 平成十九年一月十六日

岡 亮二 和歌山組 念誓寺
住職 平成十九年二月十六日

川口 信純 有田北組 浄應寺
住職 平成十九年三月二十二日

ご生前のご活躍・ご尽力に感謝申しあげ、謹んで敬弔の意を表します。